

# Paul O'Shaughnessy & Harry Bradley

ポールとは、私がダブリンの大学に通っていた80年代からの仲で、彼がアルタンのメンバーとして参加してくれている間により深い結びつきができました。ポールは並はずれた才能あるフィドル・プレーヤーで、様々なスタイル、特に私の故郷でもあるドニゴールのスタイルから多くの影響を受け、更にそこに彼独自のアクセントを付け加えています。彼は最初、母親であるパールから手ほどきを受け、その伝統を次代の担い手である息子や娘達に伝えています。

ハリー・ブラドリーは、今までの伝統音楽シーンに登場した中で最もダイナミックで有能なフルート・プレーヤーの一人です。彼はフルートが盛んなベルファスト出身で、その豊かな伝統音楽の恩恵を受けて育ちました。ハリーは最近イーリアン・パイプスも始めたのですが、とても簡単にマスターできる楽器ではありません。しかし、いともたやすくその演奏にハマってしまうとは、さすが偉大なミュージシャン。恐るべし!

…みなさんがこの素晴らしく才能豊かなミュージシャン達を心から受け入れてくれて、彼らの誠実でひたむきな、私欲のない音楽への愛情を分かち合い、楽しんでくれると確信しています。

**マレード・ニ・ウィーニー (アルタン)** (2003年のザ・リフィ・バンクスのトリオの来日に際して寄せられたメッセージより抜粋)



## ポール・オショネシー Paul O'Shaughnessy / フィドル

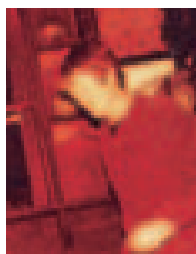
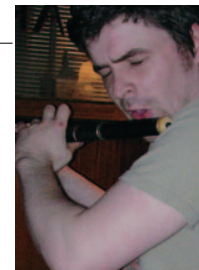
ダブリン出身。幼少時より母からフィドルを教わり、10代になってからはアイルランド北部のドニゴール地方の名フィドラーたちの手ほどきを受ける。後にアルタンを結成するマレード・ニ・ウィーニー、フランキー・ケネディがダブリンにやってきた当初より、セッションなどで親交を深める。88年~92年、アルタンに在籍し、3枚のアルバムに参加。現在は、ベギニシュというバンドに籍を置かれたわら、各地のセッションやワークショップで活躍。今日のアイルランド伝統音楽の屋台骨を支える一人。フルートもこなす。

録音は、アルタン「ホース・ウィズ・ア・ハート」「レッド・クロウ」「ハーヴェスト・ストーム」、ソロCD 1枚、デュオ名義1枚、ベギニシュ2枚。他、客演多数。

## ハリー・ブラドリー Harry Bradley / ウッド・フルート

ベルファスト出身。12歳よりティン・ホイッスルを、その後フルートを手にする。ノエル・レニハン、マイケル・クラークソン、サム・マーレイ、ブレンダン・オハラといった地元のフルート・プレーヤーに学び、またシェーマス・タンジーやデジ・ウィルキンソンといった現代のプレーヤーに影響を受け、アイルランドの若手フルート・プレーヤーの筆頭格と評価されている。現在、1920~30年代に録音を残した、特にフルートのジョン・マッケナ、トム・モリソン、フィドルのジェームズ・モリソンといった先達のスピリットを現代に受け継ぐことをめざした演奏活動を行っている。

ソロ・アルバムが2枚。客演はアルタンの最近作「ブルー・アイドル」など。ダーヴィッシュやクランのツアーにも同行している。



## ショーサヴ (通称ジョー)・オ・ニャクタン

Seosamh O'Neachtain / シャン・ノース・ダンス、アコーディオン

ゴールウェイ県スピダル出身。シャン・ノース・ダンスとは、主としてアイルランド西部ゴールウェイ県のコネマラ地方に伝わる古いスタイルを保ったソロ・ダンスをさす。ジョーは、その若き名手として近年注目を浴びている。各地の音楽フェスティバルに引っ張りだこで、デ・ダナンやダヌーなど、さまざまなミュージシャンとステージ/録音で共演している。2004年1月、アイルランドが上半期のEU議長国になったのを記念してブリュッセルで行われたイベントに出演。同年夏には、アルタンのスコットランド・ツアーにも同行している。

## 赤澤 淳 あかざわ・あつし / ブズーキ、フィドル

20代初めの頃にプリティッシュ・フォークを聴き、ボシーバンドとの出会後、ギターからフィドル、ブズーキへと自らの楽器をシフトさせつつ、Irishにはまり込んでいく。日本におけるアイルランド伝統音楽奏者の草分けの一人で、関西のバンド「シ・フォーク」のメンバー。現在様々なバンドに参加しており、名古屋、関東でもコンサートやワークショップを開催している。音楽の方向性として「人と人とが如何にシンクロするか」を念頭に「相手に合わせつつも消えない個性」という一見矛盾するような神業的な演奏を展開している。2003年のTLBTの来日公演に同行、3人に絶賛される。



大阪・東京公演は、**1月15日(土)よりチケットぴあ**等で発売予定です。札幌・春日井公演については主催者にお問い合わせください。

来日期間中、フィドル/フルート/シャン・ノース・ダンスの**ワークショップ**を開催する予定です。詳細は決まり次第下記サイトで告知いたします。関心のある方はメールでお知らせください。

なお、3月13日(日)に京都で行われる**セント・パトリックス・デイ・イベント**(主催:アイリッシュ・ネットワーク・ジャパン関西支部)への出演も予定しています。

企画/Irish Pub and Restaurant THE HILL OF TARA (ヒル・オブ・タラ) in Kyoto

京都市中京区御池通り河原町東入る ミレニアム御池ビル

電話/ファクス 075-213-3330 コンサート問い合わせ専用: 090-4279-5939 e-mail: thehilloftara@thehilloftara.com

最新情報は、<http://www.thehilloftara.com/> をご覧ください。

後援/アイルランド大使館 協力/アイルランド政府観光庁、Irish Pub テンブル・バー(大阪市)、HARD TO FIND OFFICE(札幌)、The Liffey Banks' Office(東京)、オカロランズ(東京・自由ヶ丘)、スペインサイドウェイ(東京・自由ヶ丘)、カフェ・カレドニア(愛知・春日井)、アイリッシュ・ネットワーク・ジャパン